

1. 意見

大塩川水系の治水事業は、河川技術の進展に伴い、築堤の新設、掘削などを行って河積を増大させ、護岸など洪水の安全な流下を図る対策を講じている。

191. 210.5も異常気象による洪水の明日の危険性も知らず、安全海心の生産活動と取組むためにも、洪水時の流量を調節する対策として、調整機能も有する「サニタリウム」の施設建設を是非と考へます。

「天塩川」は、日本で四番目の長さを誇る大河川であります。

これまで、長い歴史を刻み、天塩川流域では開拓が開始され、私達は河川から多くの恵みを受け、今日ある農業地帯など、各流域市町村が発展して来ていることに感謝をしなければならないと思います。

しかし、これまでには原始河川がゆえに、年々にくりかえされる氾濫のため、河岸は決壊され、洪水により、貴重な生命、財産が失われたことが多く、その記録が残されております。

天塩川水系の治水事業は、河川技術の進展に伴い、築堤の新設、拡築及び掘削などを行って河積を増大させ、護岸など、洪水の安全な流下を図る方策を講じて今日に至ってきていると思います。

しかし、これからも異常気象による大洪水が再び発生し、流域住民に甚大な被害を及ぼすおそれもあります。

安全、安心に生産活動に取り組むためにも、洪水時のピーク流量の低減対策として調整機能を有するサンルダム施設の建設を是非と考えます。

また、河川の利水に関しては、私達にとって命の水であります。

身近な名寄川の現状を見ると、渇水期には河床が露出しており、心細くこの川底の生物、飲料水にはと疑問をもちます。

日常生活においても使用水量は増えており、豊かな暮らしには生物と同じように豊かな水に流域のみなさんも委ねており、新たな需要に対処するため必要な流量の確保を図って欲しいと思います。

地球温暖化に伴って、北海道に雪が降らなくなる時代が到来すると言われております。大都会に住んでいる方々は、大きなダムの水溜めを用意され、高いビルに住み洪水や渇水の心配もなく生活されているのかも知れませんが、私達「天塩川流域」に住む人々も人の命の重み、大切さは同じです。

一日も早い、サンルダム本体の完成が待たれます。